

## オートジェニックな河川遷急点の遡上パターン

## Upstream migration of autogenic knickpoints

# 山王 梨紗 [1]; 武藤 鉄司 [2]

# Risa Sannou[1]; Tetsuji Muto[2]

[1] 長崎大・環境

; [2] 長崎大・環境

[1] Environmental Studies, Nagasaki Univ.; [2] Environmental Studies, Nagasaki Univ.

河川遷急点は河川縦断形における勾配の急変点である。河川遷急点は、一般に、相対的海水準の低下など外的要因の変化に対する河川系の応答を反映したものと理解されている。水流量の変動と河床物質が河川遷急点の生成とその後の挙動に及ぼす影響、河川遷急点と沖積河川の平衡・非平衡状態との関係を明らかにする為に小規模実験水路・水槽を用いてモデル実験をおこなった。実験に用いた堆積試料は 8 号珪砂 (平均粒径 0.08 mm, 非均質) である。実験は次の手順で行われた。堰付き二次元水路を水槽内に傾斜を付けて設置し、水路上流から定流量の堆積試料と水の供給を開始する。水路内に、堰を下流端とする平衡河川が実現してから所定時間経過後、水流量を増加させる、もしくは高位堰を取り外すといった突発的外力を加える。この外力に対して沖積河川系がどのように応答・挙動するかを、平衡状態が回復するまで観察し続ける。実験の結果、次のことが明らかになった。(1) 河川遷急点は、平衡状態を喪失した沖積河川が再び平衡状態を回復する過程で生ずる。(2) 平衡状態の沖積河川でも遷急点は発生しうるが、遡上は局所的であり、沖積上流端に到達する前に消失しやすい。(3) 突発的外力に対する沖積河川の応答様式は河床物質の影響を受ける。